

hirosaki universty

本町キャンパスマスタープラン

地域の中核病院として、医学教育・研究との共存を図るキャンパス

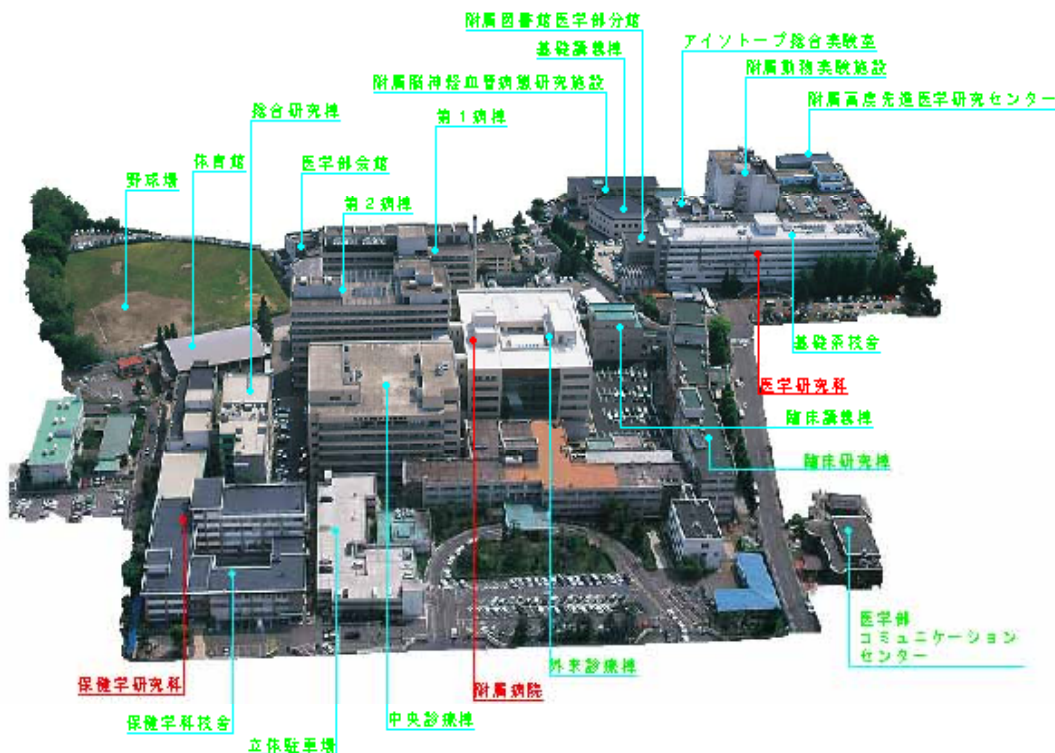


「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」をスローガンに地域と密着に連携しながら、グローバルな視点に立った教育を行い、自ら課題を探求する能力を有する自立的な社会人と高度の専門的職業人となりうる人材を育成する

平成20年3月

キャンパスのイメージ

医学教育・研究の場を周囲に配置し附属病院を中心に展開



建築計画の基本方針

医学部・附属病院は、人間の尊厳を希求し、医学の発展の一役を担うことを理念に掲げ、中核病院としての機能確保と研究・教育を一体化した施設を追求する。

附属病院外来診療棟を中心として、東側に中央診療棟、病棟を配し、周囲に医学研究科、保健学研究科との連携を図った施設配置を継続する。

周辺環境との調和

本町キャンパスは、弘前市の市街地にある。北方面を官公庁街、南・西方面を住宅地に囲まれ、JR弘前駅から西方約2kmに位置し、弘前公園、弘前市役所の南側にあり、弘前城に向かった南側斜面となっている。南側の一部は、史跡津軽氏城跡・弘前城跡新寺構の一部となっており、地域医療の中核として歴史と自然環境にも恵まれた位置にある。今後周囲道路と有機的に一体化した交通対策を弘前市と検討することが必要である。

土地利用計画

敷地内の高低差(最大7m)を考慮し、患者動線・救急動線を敷地北側の敷地の高い面とし、教職員用動線を敷地南側の敷地の低い面とし、動線を明確化した計画を行う。

現存する植樹を考慮しつつ、緑の豊かさと空間のゆとりを生かした環境保全に努める。

交通計画と駐車場整備

患者、来院者の駐車場不足を解消するため、旧外来診療棟跡地付近を駐車場とした計画を行い、人・車の明確な動線分離を図る。

将来予定されている高度救命救急センターの救急動線にも配慮する。

教職員駐車スペースについては、限られた敷地内での対応には限度があるため、利用方法等の検討が必要である。

施設整備の現状と問題点

医学部附属病院

(現状)

昭和61年度からの再開発整備は、平成19年9月に新外来診療棟が竣功し、建物整備は終了し、旧外来診療棟解体を含む基幹・環境整備を3年計画で実施予定である。

(問題点)

病院施設と臨床研究棟との連絡通路が不便である。

第1・2病棟は、建築後17年以上経過し、維持管理費の増加が見られ、老朽化した設備等の更新が必要になってきている。

(解決策)

連絡通路の新設が望まれる。

設備等は、継続的な更新を検討する。

医学研究科

(現状)

基礎系校舎は昭和40年代に建築した老朽、狭隘化が著しい建物を、平成18年度から3年計画で、共通スペース等を確保し、耐震補強を含めた全面改修工事を施工中である。

臨床研究棟は、昭和40年代に建築した老朽、狭隘化が著しい建物であり、平成20年度から2年計画で、共通スペース等を確保し、耐震補強を含めた全面改修工事を計画中的である。

(問題点)

基礎系校舎と病院施設及び臨床研究棟との連絡通路は、段差があり、荷物運搬、通行に不便である。

(解決策)

既存連絡通路は、老朽化しているため、ルートの見直しを含め検討する。

保健学研究科

(現状)

昭和46年建築され老朽、狭隘化した建物である。医療短期大学から平成12年に医学部保健学科となり、平成15年度に総合研究棟の増築により一部解消されたが、平成17年度に修士課程、平成19年度に保健学研究科博士課程が設置され研究・実験室等の不足が生じている。

(問題点)

保健学研究科設置に伴い、研究・実験施設が不足である。

昭和46年に整備されたもので施設設備の老朽化が著しい。

附属病院との連絡通路がないため、実習時等不便である。

(解決策)

既存施設の使用実態調査により、見直しを行い、共用スペース等の確保を前提とした、耐震補強を含めた全面改修を検討する。

連絡通路は設置場所を含めて検討する。

一般管理施設、廃液処理施設

(現状)

一般管理施設は、昭和42年に旧看護師学校寮として建設された建物で、寮が廃止されたから、病院の一般管理施設として使用されてきた。平成19年度に南側低層部を改修して、保育園として、使用を開始したが、北側高層部の有効活用の検討が必要である。

廃液処理施設は、外部委託処理に変更したため既存設備の撤去を行い、有効活用の検討が必要である。

(問題点)

一般管理施設は、老朽化が著しく、耐震性が低い。また、天井高が低く、幅が狭いため用途が限定される。

廃棄物処理施設は、既存設備の濃度測定及び設備機器の撤去に経費がかかる。また、機械室のため天井が高い。

(解決策)

一般管理施設は、利用方法を検討する。

廃棄物処理施設は、利用方法または撤去を検討する。

厚生施設

(現状)

昭和50年建築された老朽、狭隘化した建物であるが、教職員、学生へのサービスとして、売店、食堂、宿泊施設として重要な役割を担っている。

(問題点)

昭和50年に整備されたもので施設設備の老朽化が著しい。

(解決策)

使用実態調査により見直しを行い全面改修を検討する。

運動施設

(現状)

体育館は旧医療短大の授業及び課外活動施設として建設されたが、現在は、課外活動施設として利用している。平成20年度に耐震補強を実施する。

南塘グラウンドは、学生の課外活動等として使用されている。

(問題点)

体育館は使用目的が限定されており、有効利用されていない。

南塘グラウンドは、芝生部分が雑草化している。

(解決策)

体育館、南塘グラウンドの活用及び整備を検討する。

公園施設

(現状)

医学部基礎校舎北西部の一角に大黒松公園として整備されている。

(問題点)

緑地を含めて教職員、学生のいこいの場となっていない。

(解決策)

医学部脳神経血管病態研究施設の南側を市民に開放できる公園として整備を検討する。

附属病院北側広場の一角を入院患者等のいこいの場となる公園として整備を検討する。

駐車場施設

(現状)

患者用として立体駐車場と敷地北側で約300台、教職員用は医学部建物廻りに約400台、業者用は病棟東側に約60台、学生用は、南塘グラウンド南側に約30台確保している。

(問題点)

患者用は、午前中に利用者が集中するため市道に支障がでる状況で、苦情が多く寄せられている。

教職員用は、通勤距離の制限をしているが、勤務時間が特殊なため車利用者が多いため不足状態である。

(解決策)

旧外来診療棟跡地の整備の中で、増設を検討する。

南塘グラウンド整備と一体とした計画の中でより駐車場の確保を検討する。

中期目標・中期計画における施設整備の考え方

本学の法人化に際し策定された中期目標・中期計画におけるキャンパス整備計画関連の内容は、「本学の教育・研究・地域貢献に関する目標に沿って施設長期計画を見直し、教育研究の発展に伴うニーズに対応する長期計画を策定する」と明記している。

キャンパスは、教育研究の進展に伴い変化し続けるものであり、調和のとれたキャンパス環境を実現し、安心・安全なキャンパスとするため不断の努力を重ねなければならない。また、施設整備は、大学を取り巻く様々な状況の変化や個々の建物の実態に柔軟に対応しつつも、一貫したコンセプトを保持していくことが重要である。

キャンパスマスタープランの必要性

本学における教育研究・社会貢献等を推進する上において、その活動を支えるキャンパス環境の整備充実は将来に亘り継続的に実施されるべきであり必要不可欠な課題である。

キャンパスマスタープランは、魅力的な施設整備や既存施設の効率的運用等を戦略的に推進するための基礎となる。

キャンパス環境の充実は、これまで組織の拡充等に対応した教育研究施設の量的な整備を中心に進められてきたが、新たなキャンパスマスタープランでは、現存する施設の状況を踏まえ、教育研究の進展や学生・教職員・地域住民の要望に応じた利便性、快適性、安全性を図りながら有効利用することが重要である。

敷地の利用計画では、適切な緑地・広場や適正な規模の駐輪場・駐車場の確保など屋外環境と調和のとれた魅力あるキャンパスを作る取組がより一層求められる。

キャンパス整備の対象と経費

施設・環境整備の対象

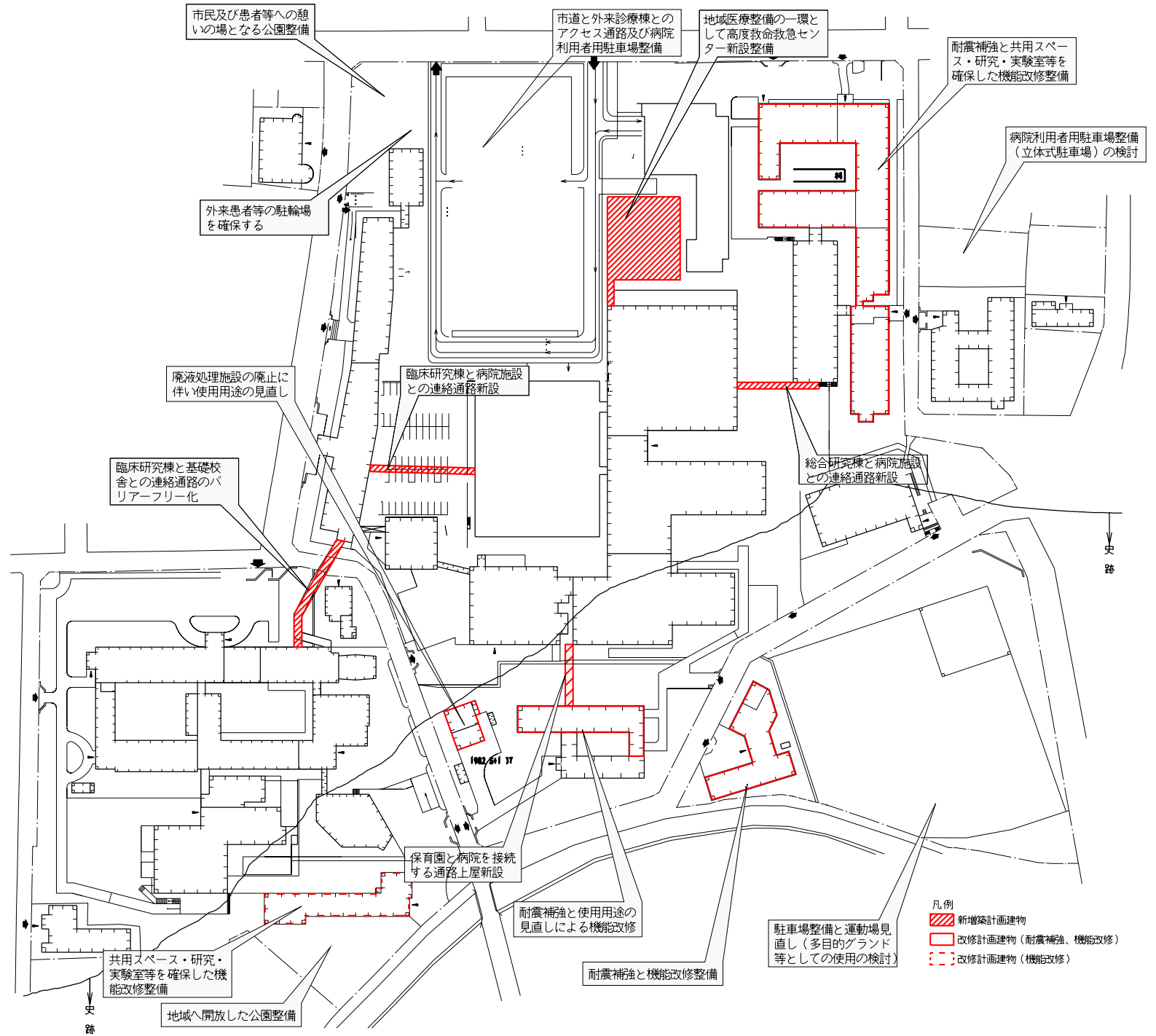
- ・教育研究の拡充や新たな展開に伴って必要とされる施設の整備
- ・教育・研究・生活環境の向上や地域貢献・国際交流の支援に必要とされる施設の整備
- ・老朽化した施設の計画的な改善及び施設の定期的な維持管理・補修等の実施
- ・屋外空間、広場、緑地等の整備・管理の実施
- ・駐車場・駐輪場、構内道路等の交通関連施設の整備・維持管理

実施するための手法

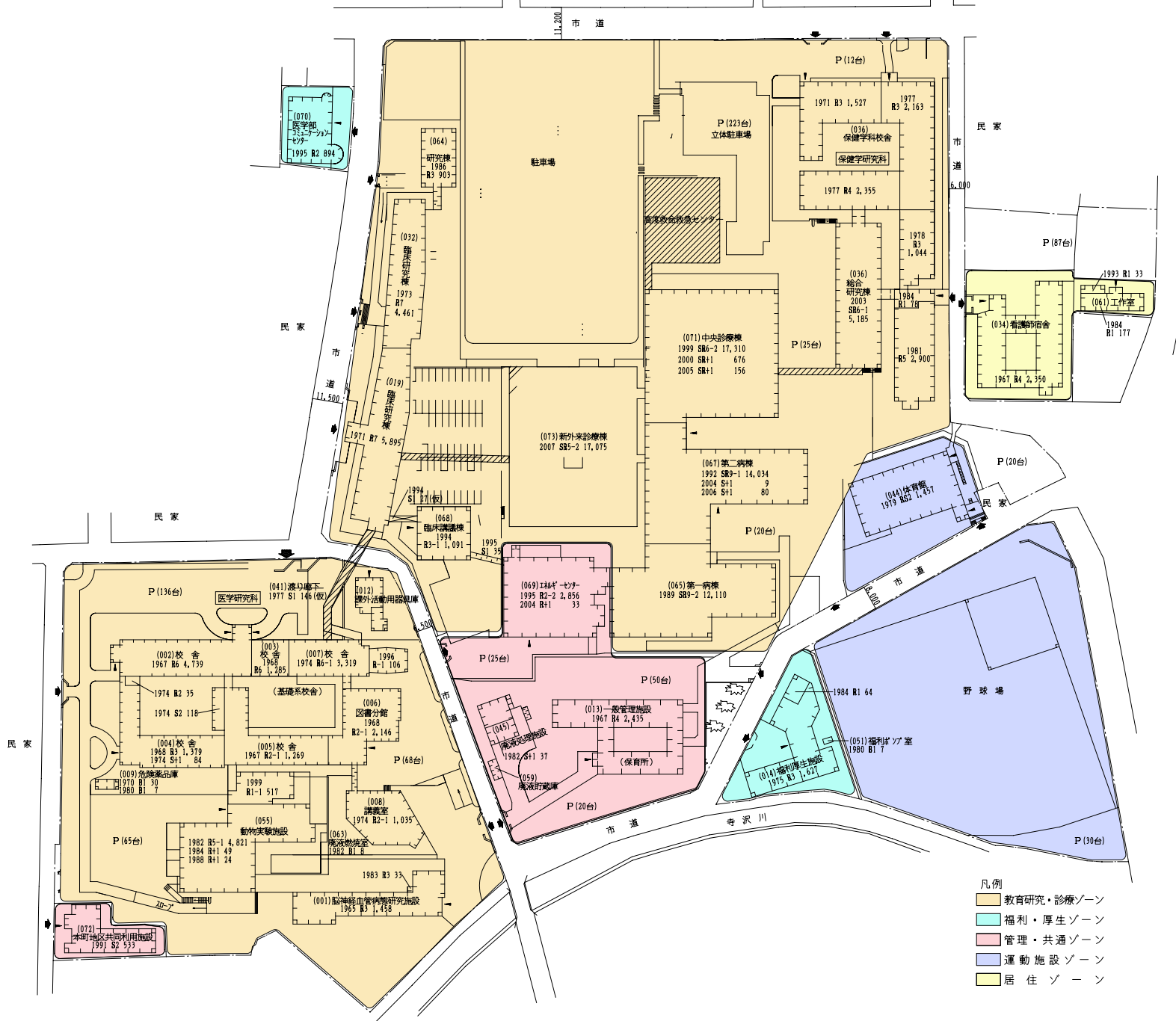
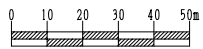
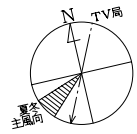
- ・国への概算要求に基づいた予算の確保(補助金、交付金、貸付金等)
- ・学内配分における予算の確保(戦略的経費、一般修繕費、環境整備費)
- ・民間の資金を活用する方法
- ・寄付等による方法
- ・ボランティア活動等によるマンパワーの活用による方法

上記のような手法があるが、仕組みが学生・教職員に十分に認識されておらず、そのことが施設や環境整備は誰かがやってくれるものという意識を増長させており、意識改革も同時に行うことが必要である。

キャンパス計画図

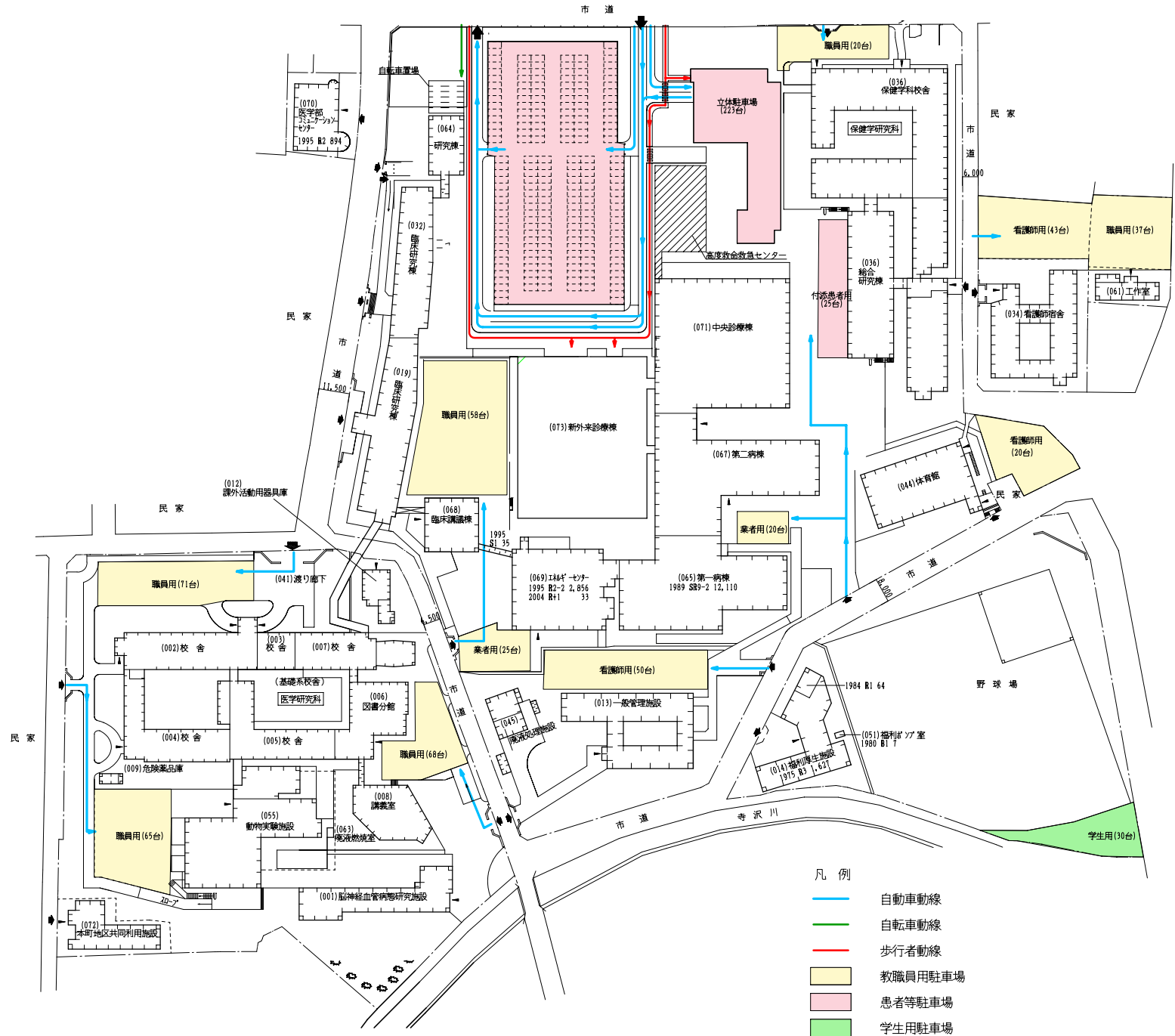
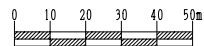
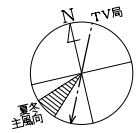


ゾーン計画図



- 凡例
- 教育研究・診療ゾーン
 - 福利・厚生ゾーン
 - 管理・共通ゾーン
 - 運動施設ゾーン
 - 居住ゾーン

構内動線計画図



- 凡例
- 自動車動線
 - 自転車動線
 - 歩行者動線
 - 教職員用駐車場
 - 患者等駐車場
 - 学生用駐車場